

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370401230		
法人名	有限会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺東館 (1ユニット)		
所在地	名古屋市西区那古野1-20-30		
自己評価作成日	平成23年11月 7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2370401230&SCD=320&PCD=23
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成23年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

仮事業所で生活をしながらも、商店街で行われる月に1回のごえん市やエコキャップキャンペーンにみたらし団子のお店を出店しています。最近では野菜売りもはじめています。時々、商店街の掃除にもでかけることもあります。そんな時、商店街の方々が「いつ帰ってくるの？」と声をかけて下さり住人さんとうれしく思っています。
仮事業所では事業所付近の掃除や神社の掃除をしたり、積極的に外出するようにしています。今までは事業所全体で外出することが多かったのですが、できるだけ、その人の思い沿った外出ができるように心がけています。
また、1月には東館への移動という環境の変化がありますが、前回の移動時に培ったものを活かして

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問調査時はホーム立替えのため今まで住み慣れた地域を離れ、空きホテルを改造した仮事業所で生活をしていた。利用者・ホームを取り巻く環境は変わったが、常に地域との交流を念頭に置いた運営に心がけ、両地域とも積極的に交流を図ることで、利用者・ホームを支援する輪が更に広がったといえる。今後もホームの機能を地域へ還元する取り組みの推進や、介護の枠にとらわれない活動を継続し、支援の輪を広げることで利用者や地域の高齢者が住み慣れた地域で安心して生活することが出来る地域ネットワーク作りに期待するところである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現場スタッフが理念の振り返りが出来るようQOM委員がユニット会議で議題を提供し、日常を振り返っている。	職員ヒアリングの会話の中で、事業所理念が自然に口をついて出てくるほど理念が共有され浸透していることが伺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	仮事業所に生活をしながら毎月の縁日やイベントでみたらし団子を出店や参加、日常は中村、商店街へのゴミ拾いにてかけている。	本年6月から仮事業所(中村区則武)住いであるが、元の円頓寺商店街の行事にも積極的に参加して関係の継続に努めている。常日頃は、仮住まい周辺の付き合いも大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記のように日常的にありのままを姿を見て理解して頂いたり、地域にホームを紹介する回覧をした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議における商店街や近隣の方の意見を大切に、すぐ実行・そしてホーム全体で継続して取り組むことができるように心がけている。	会議は2カ月に1度、元の円頓寺商店街の会場(喫茶店)に出向いて開催している。参加メンバーはほぼ定着してきており、来年(24年)1月に戻ることを前提にした取組みを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域運営推進会議や保護課の方とは住人さんの日常を報告、相談している。	運営推進会議には地域包括委員が出席しており、ホームや利用者の状況を報告して助言や指導を仰いでおり、ホームの運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上夜間帯のみ玄関に施錠をしているが昼間は住人さんがどなたでも自由に入出入りしている。	仮事業所はビジネスホテルを改造したホームであり、今までの住み慣れた環境とは違うが様々な工夫や職員の見守りで利用者は自由な暮らしを送っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修があり参加または研修報告書の回覧を行い周知している。また防犯上夜間帯のみ玄関に施錠をしているが昼間は住人さんがどなたでも自由に入出入りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在すでに利用されている方については、何事も相談しながら進めるようにしている。その他の方の必要性や活用方法までを話し合うことはできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	随時理解しやすいような契約書の見直しを行ったり、契約時には1通り書面に沿って1つ1つ説明をし、ご理解いただけるように努力している。改定の際にも説明を行い、理解頂いて上で行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が平日中心に日勤勤務、または日曜日にも出勤したりフロアへこまめに顔をだす事で住人さんやご家族からの意見やお話	利用者・家族の意見・要望の把握には管理者自身が細部にわたる気遣いによって対応しており、聞き取った意見・要望は運営に反映することが出来るように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日常の会話からも申し出や相談があった場合には管理者会議で直接法人へ報告するようにしている。代表者は管理者を通じてフィードバックを行っている。	職員に対するヒアリングの結果をみても、意見や提案がスムーズに実行に移されている様子がうかがえる。風通しの良い職場であることが実感できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者にも各館の勤務表を確認できるシステムをとっている。また、委員会の考えたシートを用いて職員のやりがいにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修も年に4回もうけている。社外研修にも管理者が各スタッフへの適切、的確な研修の提案などを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	専務が西区GHコンソーシアムや愛知県認知症グループホーム協議会の役員として活動しており、ネットワーク作りや研修などのGHの質の向上をめざして企画運営に携わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際に以前の事業所に情報を頂いたりご家族へセンター方式の記入をできる範囲でお願いし、入所前には現場スタッフへ情報提供している。それらの情報とご本人の言葉や行動から思いを読みとるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際にご家族にもセンター方式の記入できる範囲でお願いしまた、契約時などに直接お話しをお伺いすることによってご家族としての希望や思いをするように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の際に記入して頂いたセンター方式を基に、さらに常々ご本人やご家族からの声に耳を傾け、ユニット会議等で本当にご本人やご家族にとって必要な支援を見極めて、共有し、迅速に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	管理者、スタッフ一同が常々ご本人やご家族から傾け、ユニット会議等で本当にご本人やご家族にとって必要な支援を見極め、共有し、迅速に対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームからは毎月の手紙(ご本人が中心に書く)を通して、関係を絶やさないように努力している。また、ご本人にも意向を確認し、相談しながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や掃除など積極的に商店街を歩くことにより、なじみの人から声をかけてもらえる機会などを多く確保している。また、「〇〇さん元気？」などスタッフを通したり、縁日など直接ご本人と話せる機会も確保している。	仮事業者においても利用者が訪れる近隣の飲食店等には随時挨拶廻りを行い、利用者の馴染みの場所・人との関係が保てる工夫を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的には入居者同士の関係はご本人同士で築くもの、悪口があってもスタッフは直接的に静止したりせず、関心をずらしたりするなどの間接的に関わるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	症状の悪化が原因で病院へ退所された方など、時々電話連絡をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	気づきシートやセンター方式をセタッフみんなで行い、その人の思いに気づくようにしている。	本年から導入した「気づきシート(ひもときシート)」を活用して、利用者の状況、要望・意向に関する事項を記録している。これをスタッフ会議で話し合いその利用者の思いをくみ取りを行って、希望・要望の実現に向けて努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式に加え、その都度家族の方や知り合いの方などから情報を頂き習慣・なじみの生活に近づけるように努力を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリング、定期的なセンター方式に取り組みなどを通して常にご本人の現状をスタッフ全員で把握できるように努めている。体調を崩した方はチェックするように項目を決めて全員で観察、早期発見できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族にも意見を聞きご本人の気持ちとバランスをとっている。その上でカンファレンスを行いスタッフ全員で協議しケアプランの見直しにも同じ視点で話し合えるので役立っている。	「気づきシート(ひもときシート)」を活用して、利用者の状況、要望・意向をくみ取るとともに、家族や関係者と話し合い、その利用者の思いを以降のケアに反映させる試みを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の職員研修へ全員参加し、記録の書き方やルールが統一されたことによりスタッフ間で情報がとても共有しやすくなっている。ケアプランの見直しにも同じ視点で話し合えるので役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携病院以外の通院やデパートや御園座などの外出など、ご本人や家族の希望に沿って管理者含めスタッフが柔軟に対応、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日馴染みの喫茶店に通う住人や声をかけあう昔からの知人等、ご本人と地域が自然な状態で関わるよう支援している。また、毎月の縁日やイベントにも積極的に参加し、関わる機会を多く確保している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常にご本人と家族の希望を第一に事業所としては生活を24時間対応可能な往診クリニック・主治医には医療面で共に、ご本人を支えていく為に連携、相談、提案を行っている。	協力医による2週間に1度の往診による定期健康診断を実施しており、おおむねこの範囲内で処置出来ている。特に本人の希望によるかかりつけ医の受診に対しては個別に支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤勤務である看護師に対し管理者が住人さん全員の近況を報告している。スタッフも日ごろから気づきや特変事項を記録し看護師は出勤時に目を通して把握、連携できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院際には家族や病院担当者と連絡と取り合いご本人をどう支えていくのかをその都度協議して決めている。また、ご本人の情報提供、ホーム受け入れ体制づくりを迅速に行い、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の聞き取りや定期的なセンター方式などを通してご家族やご本人の希望を把握し指針としてホームとしての対応を定めているので、その都度ご本人・ご家族・医師と相談しながら進めるようにしている。	ホームとしては、利用者(及び家族)の意見・要望を最大限に尊重する方針で臨んでいる。終末期を迎えた場合の対処方についても、職員間で意識の統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に備えて、ユニット会議などで事前に情報を共有しておいたり、往診やその都度電話連絡などで「こういった場合はどうしたらよいか」を医師や看護師から指示をもらって対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最近では1か月に一度、住人の避難誘導を含めた防災訓練を行っている。想定を夜間体制にして、1人のスタッフ(訓練の都度交代)で行うようにしたり、階段の昇り降りも行っている。地域の方には一度だけ参加してもらうことができました。	6階建の現仮事業所においては、通報訓練を含めて1か月に1回避難訓練を実施している。非常災害時には迅速に避難誘導をすることができるように日々職員の意識向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や習慣に合わせた言葉かけをしている。例えば、丁寧語はよそよそしく嫌だ、という方には失礼のない普段の言葉で対応し、衣類や入浴時間など自己決定をいただいている。	法人理念でもある「人生楽しく自分らしく」を念頭に、利用者一人ひとりの人格の尊重、誇り・プライバシーの保護に向け、きめ細かな対応が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを表現しやすいような環境(スタッフの表情や聴く姿勢)を作ったり、密なコミュニケーションの中でご本人の思いに沿った提案・助言を行うことにより自己決定を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や朝食時間、入浴時間を決めずに、ご本人のペースで生活して頂けるようにスタッフが声かけや調整を行い、関わっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフがご本人の自己選択を支援する事により衣類を決めたり女性の住人さん同士で化粧や衣類を褒めあったりしている。また、ご本人希望通り、馴染みになった美容院での散髪も継続的に実現できている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に献立決めや買い物、調理、配膳などを住人さんと共に行っている。	利用者を交えて献立を決め、食材の調達・調理・配膳を行っている。また、外食や近隣のコンビニで好きなものを選んで買う等の変化をつけて食が利用者にとって楽しみになるように支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援が必要な住人にはシートを活用し水分を把握管理している。また、献立基に三カ月一度、栄養士によるカロリー計算、栄養バランスのチェックなどを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に合わせて口腔ケアの声かけや支援を行い、口腔内トラブルや誤嚥の予防に努めるとともに、口腔状態を観察し、記録して他のスタッフとの共有ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えのない方にはその方のリズムに合わせた定時の誘導を行いトイレでの排泄に努めるとともに一人ひとりの希望と有する能力に応じた布パンツ、リハビリパンツ、パット類を使用している。	利用者一人一人に合わせた排泄支援を行っており、さりげない声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その方の便秘の原因と思われることを把握し運動や水分量などを支援している。中にはご自分で納豆や黒飴が良いと信じている方も見えるので、その思いに沿って支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のタイミングはその方の希望に合わせて支援している。他には歌を歌いながら入浴されるのが好きな方、温泉気分で入浴される方などその人の思いにあった支援をしている。	個々の生活習慣、希望に沿った対応を行っている。入浴を拒む人には言葉掛けに工夫し入浴を楽しんでもらうよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でもその日の体調に合わせて居室やソファで休息をとって頂いている。また、居室が快適であるようにエアコンの調整を行ったり、夜間の巡視の際にも静かに行うように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局による居宅療養管理指導を取り入れられている。薬についての疑問や飲み忘れなどの対応などその都度(時間外対応も可能)薬剤師に確認し、支援・症状の変化の観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なことを把握し、調理や縫物など行えるように支援している。また、ビールやたばこなどの嗜好品も継続して楽しんで頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	商店街の掃除や買い物、散歩回覧をまわす、郵便局に行くなどの日常的な外出を機会あるごとに、毎日頻回に行っている。その他にもその方の思いに沿った外出にその都度対応できるように家族や地域のその人に協力・情報提供して頂いている。	解放的な空気の中で一部の利用者には単独外出も可能にしている。利用者の希望・身体能力に沿って散歩コースを選び、事前に同行して道順を徹底し、立ち寄り先等に挨拶して安全性を確認したうえで単独外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でおこずかいを所持しており、好きなものを購入されたり自己管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持して知人などに電話をしたり、外出の約束を自ら行っている方も見える。その他にも家族、知人の見える方には毎月写真入れの便せんを用意し、ご本人中心となって手紙を書いてでてる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の空調が合わない方には、1枚上着やひざかけを提案したりして、一人一人にとって居心地の良い空間になるようにしている。	空きホテルを改造した仮事業所であるため、使い勝手の悪い部分がある。しかし、様々な工夫や職員の支援で利用者が快適な生活をおくることができるようにしている。また、ロビーを利用した食堂はガラス張りの外壁で採光もよく、眺めも良好である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを活用したりゆっくり過ごせるように場所作ったり、テレビのみたい方には見やすい場所へ座って頂いている。他にも玄関のベンチなどを利用し、その方の過ごしやすい居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際には馴染みの古い家具を持ってきて頂くようお願いをしている。その都度ご本人家族に相談しながら居心地のよい空間作りを行っている。	居室は所狭しと家具類や電気器具、衣類が持ち込まれており、利用者が居心地良く過ごせるよう配置を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式を使用し「出来ること」「わかること」を把握している。スタッフは過剰支援ではなく、その力を活かせるような支援をしている。例えば、ある歩きやすい履物、トイレの案内表示、引き出しに内容表示をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370401230		
法人名	有限会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺東館 (2ユニット)		
所在地	名古屋市西区那古野1-20-30		
自己評価作成日	平成23年11月 7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2370401230&SCD=320&PCD=23
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成23年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

仮事業所で生活をしながらも、商店街で行われる月に1回のごえん市やエコキャップキャンペーンにみたらし団子のお店を出店しています。最近では野菜売りもはじめています。時々、商店街の掃除にもでかけることもあります。そんな時、商店街の方々が「いつ帰ってくるの?」と声をかけて下さり住人さんとうれしく思っています。
仮事業所では事業所付近の掃除や神社の掃除をしたり、積極的に外出するようにしています。今までは事業所全体で外出することが多かったのですが、できるだけ、その人の思い沿った外出ができるように心がけています。
また、1月には東館への移動という環境の変化がありますが、前回の移動時に培ったものを活かして

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問調査時はホーム立替えのため今まで住み慣れた地域を離れ、空きホテルを改造した仮事業所で生活をしていた。利用者・ホームを取り巻く環境は変わったが、常に地域との交流を念頭に置いた運営に心がけ、両地域とも積極的に交流を図ることで、利用者・ホームを支援する輪が更に広がったといえる。今後もホームの機能を地域へ還元する取り組みの推進や、介護の枠にとらわれない活動を継続し、支援の輪を広げることで利用者や地域の高齢者が住み慣れた地域で安心して生活することが出来る地域ネットワーク作りに期待するところである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現場スタッフが理念の振り返りが出来るようQOM委員がユニット会議で議題を提供し、日常を振り返っている。	職員ヒアリングの会話の中で、事業所理念が自然に口をついて出てくるほど理念が共有され浸透していることが伺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	仮事業所に生活をしながら毎月の縁日やイベントでみたらし団子を出店や参加、日常は中村、商店街へのゴミ拾いにてかけている。	本年6月から仮事業所(中村区則武)住いであるが、元の円頓寺商店街の行事にも積極的に参加して関係の継続に努めている。常日頃は、仮住まい周辺の付き合いも大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記のように日常的にありのままを姿を見て理解して頂いたり、地域にホームを紹介する回覧をした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議における商店街や近隣の方の意見を大切に、すぐ実行・そしてホーム全体で継続して取り組むことができるように心がけている。	会議は2カ月に1度、元の円頓寺商店街の会場(喫茶店)に出向いて開催している。参加メンバーはほぼ定着してきており、来年(24年)1月に戻ることを前提にした取組みを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域運営推進会議や保護課の方とは住人さんの日常を報告、相談している。	運営推進会議には地域包括委員が出席しており、ホームや利用者の状況を報告して助言や指導を仰いでおり、ホームの運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上夜間帯のみ玄関に施錠をしているが昼間は住人さんがどなたでも自由に入出入りしている。	仮事業所はビジネスホテルを改造したホームであり、今までの住み慣れた環境とは違うが様々な工夫や職員の見守りで利用者は自由な暮らしを送っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修があり参加または研修報告書の回覧を行い周知している。また防犯上夜間帯のみ玄関に施錠をしているが昼間は住人さんがどなたでも自由に入出入りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在すでに利用されている方については、何事も相談しながら進めるようにしている。その他の方の必要性や活用方法までを話し合うことはできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	随時理解しやすいような契約書の見直しを行ったり、契約時には1通り書面に沿って1つ1つ説明をし、ご理解いただけるように努力している。改定の際にも説明を行い、理解頂いて上で行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が平日中心に日勤勤務、または日曜日にも出勤したりフロアへこまめに顔をだす事で住人さんやご家族からの意見やお話	利用者・家族の意見・要望の把握には管理者自身が細部にわたる気遣いによって対応しており、聞き取った意見・要望は運営に反映することが出来るように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日常の会話からも申し出や相談があった場合には管理者会議で直接法人へ報告するようにしている。代表者は管理者を通じてフィードバックを行っている。	職員に対するヒアリングの結果をみても、意見や提案がスムーズに実行に移されている様子がうかがえる。風通しの良い職場であることが実感できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者にも各館の勤務表を確認できるシステムをとっている。また、委員会の考えたシートを用いて職員のやりがいにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修も年に4回もうけている。社外研修にも管理者が各スタッフへの適切、的確な研修の提案などを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	専務が西区GHコンソーシアムや愛知県認知症グループホーム協議会の役員として活動しており、ネットワーク作りや研修などのGHの質の向上をめざして企画運営に携わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際に以前の事業所に情報を頂いたりご家族へセンター方式の記入をできる範囲でお願いし、入所前には現場スタッフへ情報提供している。それらの情報とご本人の言葉や行動から思いを読みとるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際にご家族にもセンター方式の記入できる範囲でお願いしまた、契約時などに直接お話しをお伺いすることによってご家族としての希望や思いをするように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の際に記入して頂いたセンター方式を基に、さらに常々ご本人やご家族からの声に耳を傾け、ユニット会議等で本当にご本人やご家族にとって必要な支援を見極めて、共有し、迅速に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	管理者、スタッフ一同が常々ご本人やご家族から傾け、ユニット会議等で本当にご本人やご家族にとって必要な支援を見極め、共有し、迅速に対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームからは毎月の手紙(ご本人が中心に書く)を通して、関係を絶やさないように努力している。また、ご本人にも意向を確認し、相談しながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や掃除など積極的に商店街を歩くことにより、なじみの人から声をかけてもらえる機会などを多く確保している。また、「〇〇さん元気？」などスタッフを通したり、縁日など直接ご本人と話せる機会も確保している。	仮事業者においても利用者が訪れる近隣の飲食店等には随時挨拶廻りを行い、利用者の馴染みの場所・人との関係が保てる工夫を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的には入居者同士の関係はご本人同士で築くもの、悪口があってもスタッフは直接的に静止したりせず、関心をずらしたりするなどの間接的に関わるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	症状の悪化が原因で病院へ退所された方など、時々電話連絡をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	気づきシートやセンター方式をセタッフみんなで行き取り組み、その人の思いに気づくようにしている。	本年から導入した「気づきシート(ひもときシート)」を活用して、利用者の状況、要望・意向に関する事項を記録している。これをスタッフ会議で話し合いその利用者の思いをくみ取りを行って、希望・要望の実現に向け努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式に加え、その都度家族の方や知り合いの方などから情報を頂き習慣・なじみの生活に近づけるように努力を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリング、定期的なセンター方式に取り組みなどを通して常にご本人の現状をスタッフ全員で把握できるように努めている。体調を崩した方はチェックするように項目を決めて全員で観察、早期発見できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族にも意見を聞きご本人の気持ちとバランスをとっている。その上でカンファレンスを行いスタッフ全員で協議しケアプランの見直しにも同じ視点で話し合えるので役立っている。	「気づきシート(ひもときシート)」を活用して、利用者の状況、要望・意向をくみ取るとともに、家族や関係者と話し合い、その利用者の思いを以降のケアに反映させる試みを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の職員研修へ全員参加し、記録の書き方やルールが統一されたことによりスタッフ間で情報がとても共有しやすくなっている。ケアプランの見直しにも同じ視点で話し合えるので役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携病院以外の通院やデパートや御園座などの外出など、ご本人や家族の希望に沿って管理者含めスタッフが柔軟に対応、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日馴染みの喫茶店に通う住人や声をかけあう昔からの知人等、ご本人と地域が自然な状態で関わるよう支援している。また、毎月の縁日やイベントにも積極的に参加し、関わる機会を多く確保している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常にご本人と家族の希望を第一に事業所としては生活を24時間対応可能な往診クリニック・主治医には医療面で共に、ご本人を支えていく為に連携、相談、提案を行っている。	協力医による2週間に1度の往診による定期健康診断を実施しており、おおむねこの範囲内で処置出来ている。特に本人の希望によるかかりつけ医の受診に対しては個別に支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤勤務である看護師に対し管理者が住人さん全員の近況を報告している。スタッフも日ごろから気づきや特変事項を記録し看護師は出勤時に目を通して把握、連携できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院際には家族や病院担当者と連絡と取り合いご本人をどう支えていくのかをその都度協議して決めている。また、ご本人の情報提供、ホーム受け入れ体制づくりを迅速に行い、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の聞き取りや定期的なセンター方式などを通してご家族やご本人の希望を把握し指針としてホームとしての対応を定めているので、その都度ご本人・ご家族・医師と相談しながら進めるようにしている。	ホームとしては、利用者(及び家族)の意見・要望を最大限に尊重する方針で臨んでいる。終末期を迎えた場合の対処方についても、職員間で意識の統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に備えて、ユニット会議などで事前に情報を共有しておいたり、往診やその都度電話連絡などで「こういった場合はどうしたらよいか」を医師や看護師から指示をもらって対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最近では1か月に一度、住人の避難誘導を含めた防災訓練を行っている。想定を夜間体制にして、1人のスタッフ(訓練の都度交代)で行うようにしたり、階段の昇り降りも行っている。地域の方には一度だけ参加してもらうことができました。	6階建の現仮事業所においては、通報訓練を含めて1か月に1回避難訓練を実施している。非常災害時には迅速に避難誘導をすることができるように日々職員の意識向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や習慣に合わせた言葉かけをしている。例えば、丁寧語はよそよそしく嫌だ、という方には失礼のない普段の言葉で対応し、衣類や入浴時間など自己決定をいただいている。	法人理念でもある「人生楽しく自分らしく」を念頭に、利用者一人ひとりの人格の尊重、誇り・プライバシーの保護に向け、きめ細かな対応が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを表現しやすいような環境(スタッフの表情や聴く姿勢)を作ったり、密なコミュニケーションの中でご本人の思いに沿った提案・助言を行うことにより自己決定を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や朝食時間、入浴時間を決めずに、ご本人のペースで生活して頂けるようにスタッフが声かけや調整を行い、関わっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフがご本人の自己選択を支援する事により衣類を決めたり女性の住人さん同士で化粧や衣類を褒めあったりしている。また、ご本人希望通り、馴染みになった美容院での散髪も継続的に実現できている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に献立決めや買い物、調理、配膳などを住人さんと共に行っている。	利用者を交えて献立を決め、食材の調達・調理・配膳を行っている。また、外食や近隣のコンビニで好きなものを選んで買う等の変化をつけて食が利用者にとって楽しみになるように支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援が必要な住人にはシートを活用し水分を把握管理している。また、献立基に三カ月に一度、栄養士によるカロリー計算、栄養バランスのチェックなどを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に合わせて口腔ケアの声かけや支援を行い、口腔内トラブルや誤嚥の予防に努めるとともに、口腔状態を観察し、記録して他のスタッフとの共有ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えのない方にはその方のリズムに合わせた定時の誘導を行いトイレでの排泄に努めるとともに一人ひとりの希望と有する能力に応じた布パンツ、リハビリパンツ、パット類を使用している。	利用者一人一人に合わせた排泄支援を行っており、さりげない声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その方の便秘の原因と思われることを把握し運動や水分量などを支援している。中にはご自分で納豆や黒飴が良いと信じている方も見えるので、その思いに沿って支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のタイミングはその方の希望に合わせて支援している。他には歌を歌いながら入浴されるのが好きな方、温泉気分で入浴される方などその人の思いにあった支援をしている。	個々の生活習慣、希望に沿った対応を行っている。入浴を拒む人には言葉掛けに工夫し入浴を楽しんでもらうよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でもその日の体調に合わせて居室やソファで休息をとって頂いている。また、居室が快適であるようにエアコンの調整を行ったり、夜間の巡視の際にも静かに行うように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局による居宅療養管理指導を取り入れられている。薬についての疑問や飲み忘れなどの対応などその都度(時間外対応も可能)薬剤師に確認し、支援・症状の変化の観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なことを把握し、調理や縫物など行えるように支援している。また、ビールやたばこなどの嗜好品も継続して楽しんで頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	商店街の掃除や買い物、散歩回覧をまわす、郵便局に行くなどの日常的な外出を機会あるごとに、毎日頻回に行っている。その他にもその方の思いに沿った外出にその都度対応できるように家族や地域のその人に協力・情報提供して頂いている。	解放的な空気の中で一部の利用者には単独外出も可能にしている。利用者の希望・身体能力に沿って散歩コースを選び、事前に同行して道順を徹底し、立ち寄り先等に挨拶して安全性を確認したうえで単独外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でおこずかいを所持しており、好きなものを購入されたり自己管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持して知人などに電話をしたり、外出の約束を自ら行っている方も見える。その他にも家族、知人の見える方には毎月写真入れの便せんを用意し、ご本人中心となって手紙を書いてでてる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の空調が合わない方には、1枚上着やひざかけを提案したりして、一人一人にとって居心地の良い空間になるようにしている。	空きホテルを改造した仮事業所であるため、使い勝手の悪い部分がある。しかし、様々な工夫や職員の支援で利用者が快適な生活をおくることができるようにしている。また、ロビーを利用した食堂はガラス張りの外壁で採光もよく、眺めも良好である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを活用したりゆっくり過ごせるように場所作ったり、テレビのみたい方には見やすい場所へ座って頂いている。他にも玄関のベンチなどを利用し、その方の過ごしやすい居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際には馴染みの古い家具を持ってきて頂くようお願いをしている。その都度ご本人家族に相談しながら居心地のよい空間作りを行っている。	居室は所狭しと家具類や電気器具、衣類が持ち込まれており、利用者が居心地良く過ごせるよう配置を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式を使用し「出来ること」「わかること」を把握している。スタッフは過剰支援ではなく、その力を活かせるような支援をしている。例えば、ある歩きやすい履物、トイレの案内表示、引き出しに内容表示をしている。		